

平成 28 年 11 月 4 日

平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果

豊能町教育委員会

はじめに

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、平成 19 年度より実施されています。

今年度は、平成 28 年 4 月 19 日(火)に悉皆調査として実施され、本町は、全小学 6 年生(4 校 120 名)、全中学 3 年生(2 校 131 名)が参加しました。

調査内容は、教科に関する調査(国語、算数・数学)、生活習慣や学習環境等に関する調査が実施され、教科に関する調査は、主として「知識」に関する問題(A 区分)と「活用」に関する問題(B 区分)に分けて行われました。

【1】全体概要



小学校は、国語、算数とも A 区分(知識)において、府・全国の平均正答率を上回りました。B 区分(活用)においては、算数は同じでしたが、国語は全国の前平均正答率を下回りました。

中学校は、各教科どちらの区分においても、府、全国の前平均正答率を上回りました。

※但し、本調査において測定できる学力は、特定の一部分です。

〔小学校〕 各教科区分の前平均正答率(%)

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
区 分	知識	活用	知識	活用
豊能町平均	74.5	55.1	80.4	47.2
大阪府平均	71.3	55.4	76.9	45.8
全国平均	72.9	57.8	77.6	47.2
問題数	15 問	10 問	16 問	13 問

〔中学校〕 各教科区分の前平均正答率(%)

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
区 分	知識	活用	知識	活用
豊能町平均	77.4	69.2	68.7	53.6
大阪府平均	73.5	63.3	61.7	43.1
全国平均	75.6	66.5	62.2	44.1
問題数	33 問	9 問	36 問	15 問

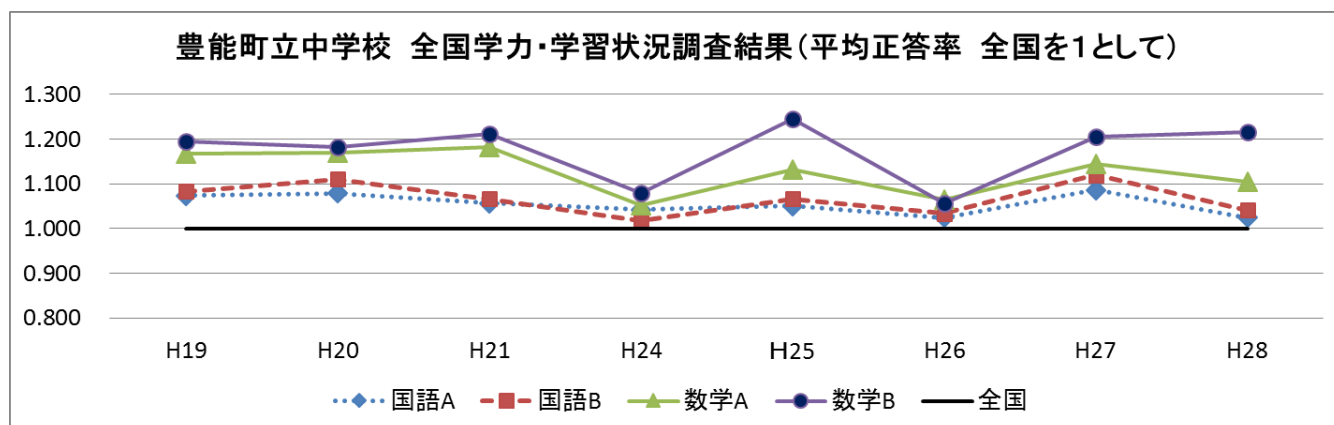
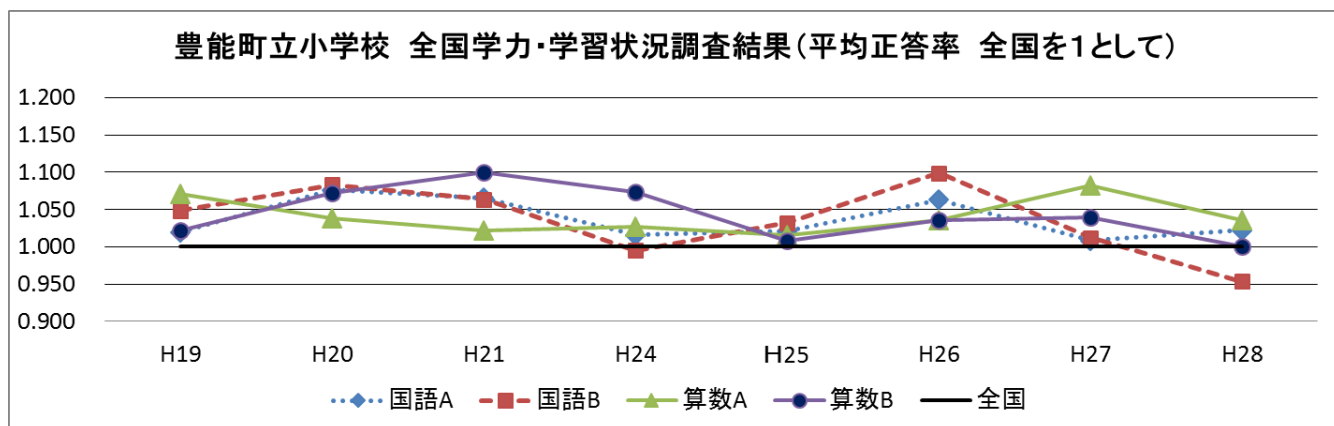
次ページの折れ線グラフは、全国の前平均正答率を 1 としたときの本町の各教科ごとの前平均正答率の前 19 年度から 8 回分の推移です。

年によって多少上下はありますが、全国を 1 として、小学校で-0.05~+0.1、中学校では-0.02~+0.25 の間で動いています。今年度は特に中学校の数学 B 区分(「活用」に関する問題)の前平均正答率が

全国の平均正答率より 9.5%上回り、高い正答率となっています。

<H19 年度からの平均正答率の経年変化を表すグラフ>

* 平成 22 年度は抽出調査のためデータがありません。平成 23 年度は震災のため中止となりました。



しかし、国語は A・B 区分とも下降傾向にあり、特に小学校の国語 B 区分（「活用」に関する問題）の平均正答率が全国に比べ 2.7%（全国平均正答率を 1 として 0.05）下回りました。資料などを読み取って自分の言葉で表現することに課題がうかがえます。

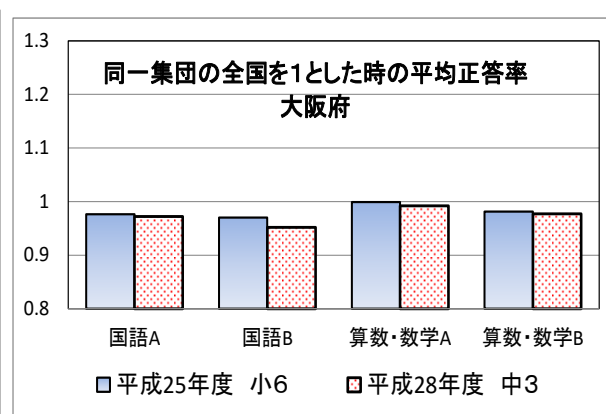
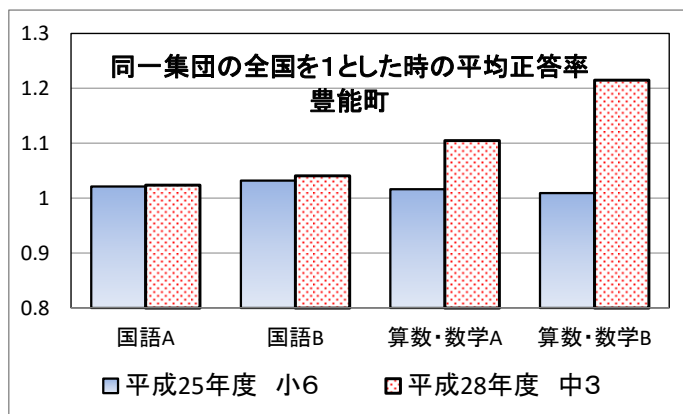
【2】成果と課題

同一集団で比較すると小学校から中学校での 3 年間で学力の向上がみられます。しかし、関心・意欲や思考力・判断力・表現力など見えない学力をどのようにつけていくかが課題です。



3 年前小学校 6 年生であった集団と今年度中学校 3 年生（同一集団）の平均正答率を比べてみました（次ページのグラフ参照）。左側のグラフは本町の比較、右側は大阪府のものです。

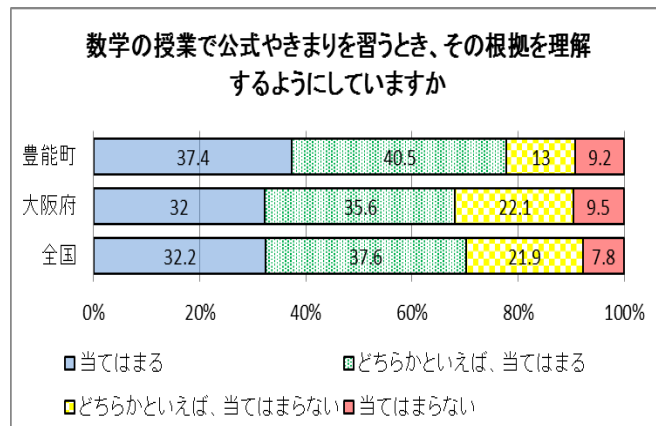
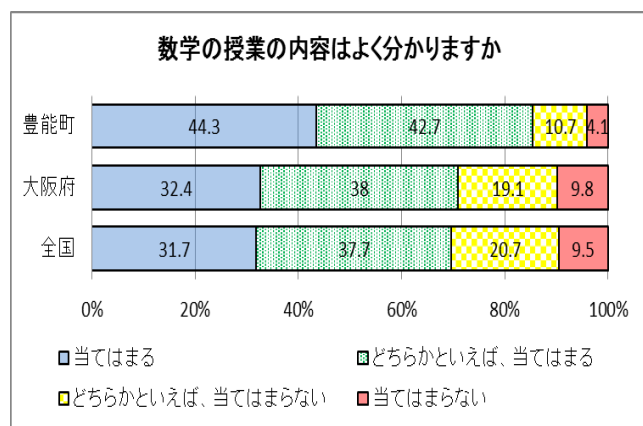
大阪府全体では、平均正答率の変化は小学校と中学校であまり大きくは変わらず、やや中学校で下がっているようです。しかし、本町では、同一集団の平均正答率が小学校から中学校にかけて伸びていることがわかります。小学校で身につけた基礎基本の力を中学校でさらに伸ばすことができていると考えられます。



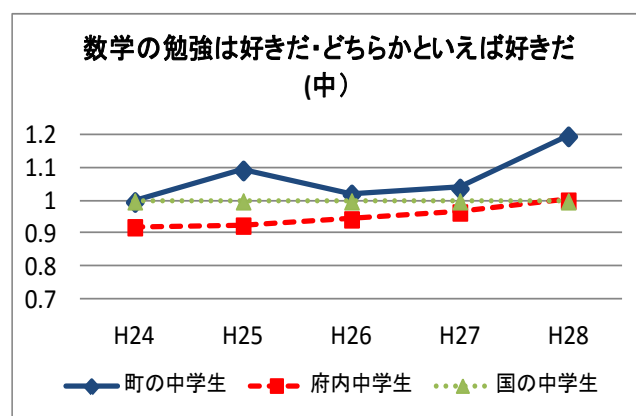
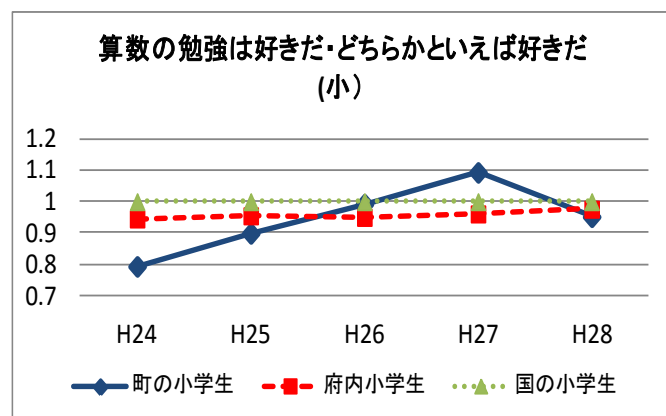
児童生徒質問紙の結果から教科の勉強に対する姿勢や興味・関心との関係が見えてきます。

次の2つは、今年度の中学3年生の生徒質問紙の数学の勉強に関する項目の中で、大阪府や全国と比べて肯定的な回答が高かったものです。「授業がわかる」「なぜそうなるのか、わかろうとする」と答えている生徒が全国や府よりも高いです。

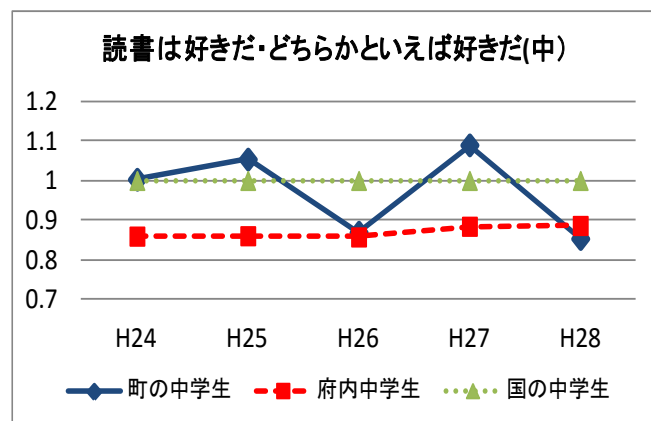
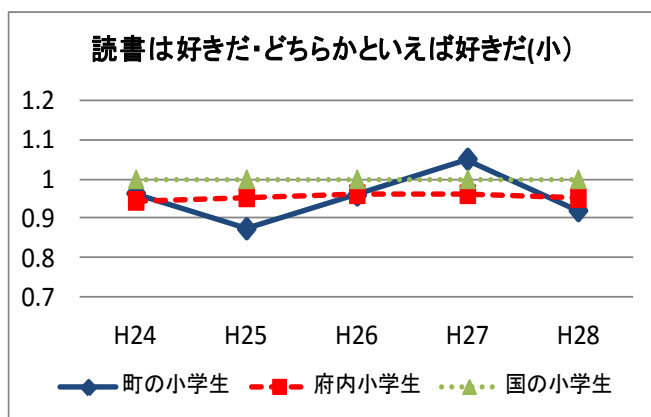
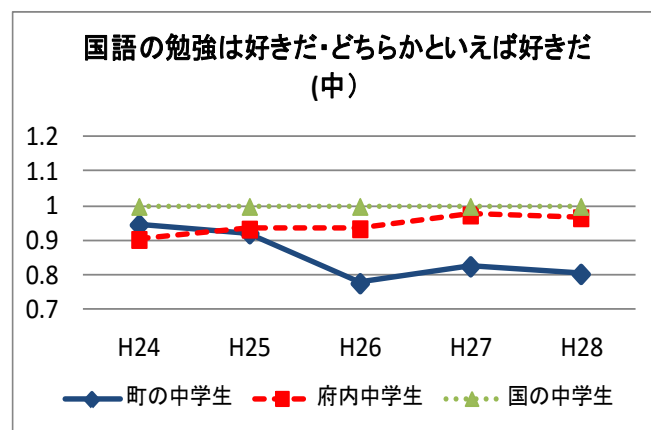
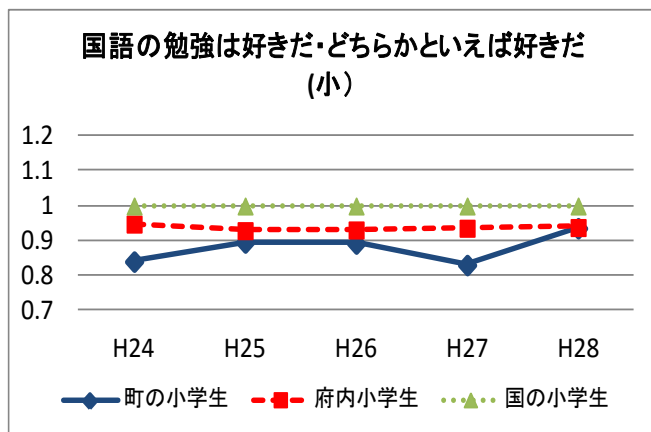
<今年度の生徒質問紙（中学校）より>



「算数・数学の勉強は好きですか」の質問に対して全国を1とした場合の最近5年間の豊能町と大阪府の経年変化グラフの波形をみると、本町は肯定的な回答が増加傾向にあります。今年度の中学生の回答を小学生時と比較すると、0.9から1.2まで上昇し、興味・関心の高まりと平均正答率の向上が比例関係にあります。



一方、国語の勉強に対しては過去 5 年間の推移を見ると、肯定的な回答が国や府よりも低い傾向が続いています。また、読書についての項目では、年によって変動はありますが、小学生、中学生とも「読書が好き・どちらかといえば好き」の回答が昨年より下がりました。国語 B 区分の問題では、資料や文章を読み取って自分の考えを表現する力が求められます。漢字や語彙など基礎的な知識に加えて、文章を読み取り、自分の考えや意見を的確に表現できる力をつける学習が必要です。



* 平成 28 年度の調査問題は以下の文部科学省のホームページに掲載されています。

国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/16chousa/16chousa.htm>

【3】児童生徒質問紙より

子どもたちは地域との交流や文化を大切にしています。正しい人権意識、規範意識、生活習慣を身につけることが大切です。

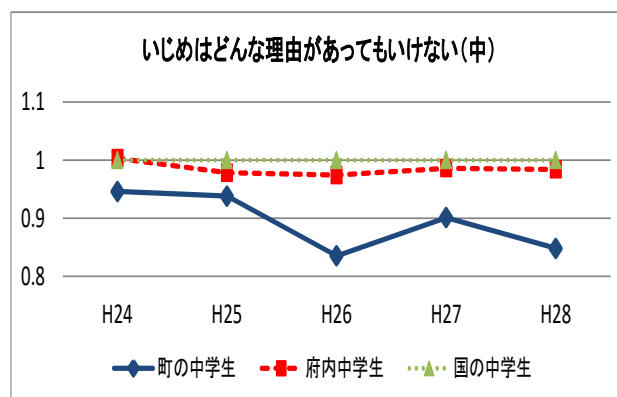
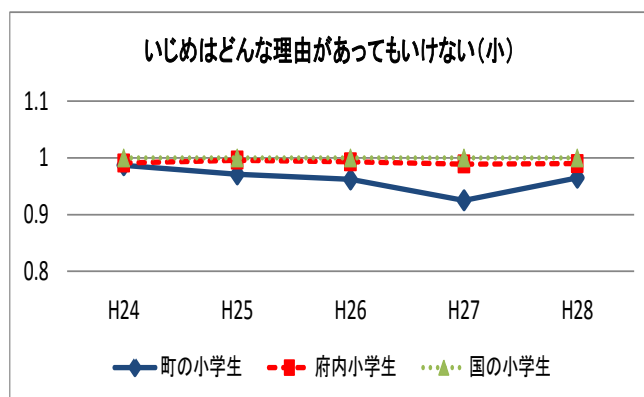
各項目について、全国を 1 としたときの豊能町と大阪府の 5 年間の経年変化です。

<課題がある項目>

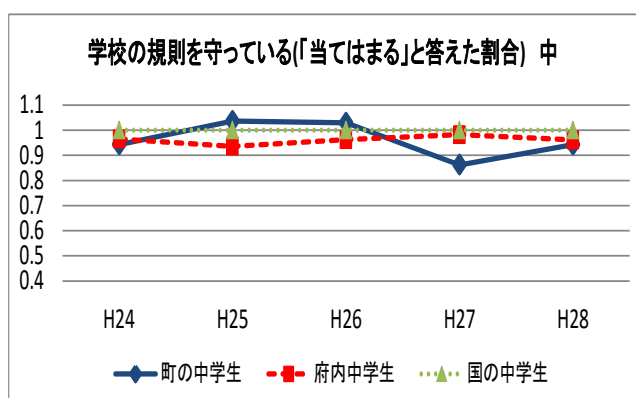
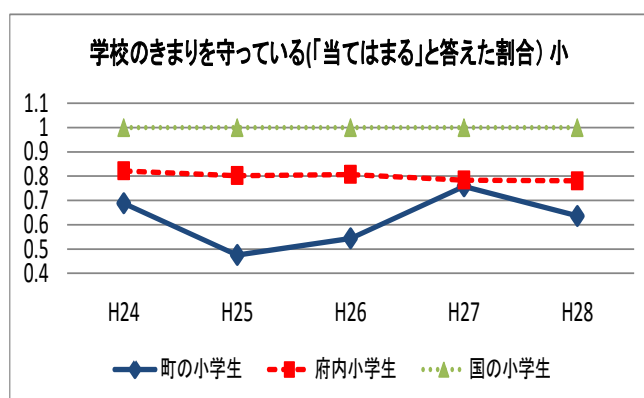
学校・家庭・地域みんなで
考えていかないと...



①「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに「当てはまる」と答えた割合



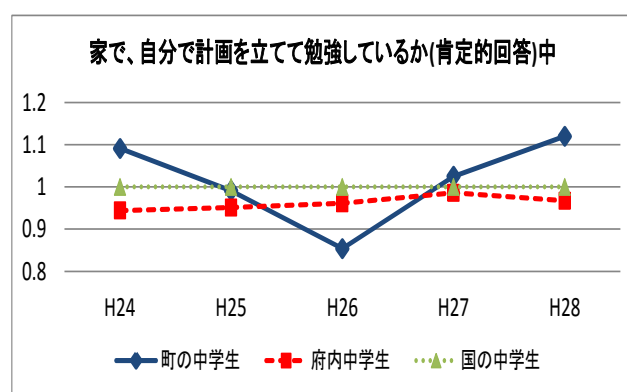
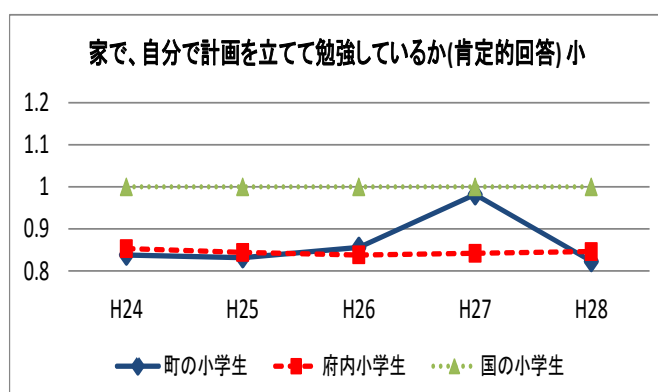
②「学校のきまり(規則)を守っているか」という問いに「当てはまる」と答えた割合



小学校では②、中学校では①の項目で全国や府を下回っているところが気になります。

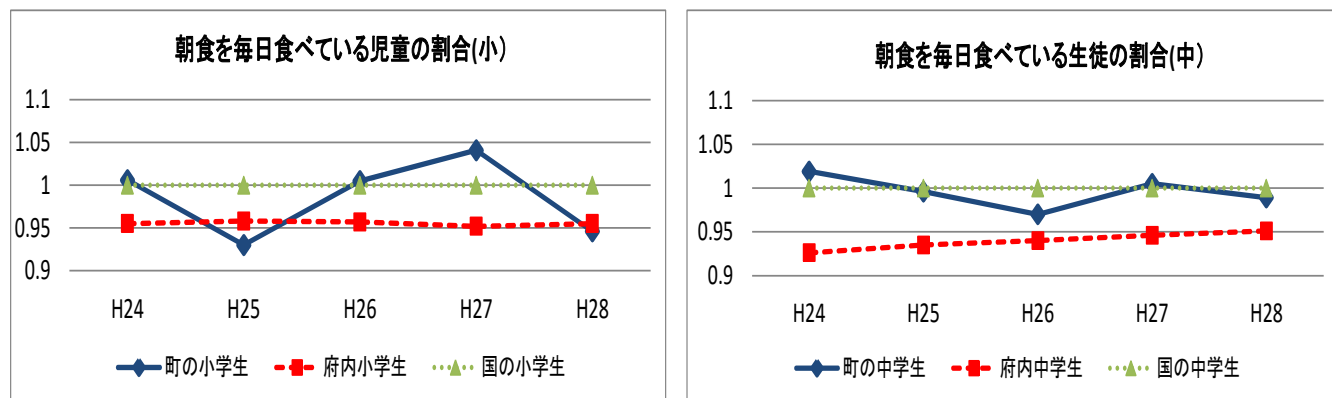
しかし、本町の各学校での問題行動の発生率が、国や府に比べても特に高いわけではありません。単に人権意識や規範意識が低いというあらわれということではなく、児童生徒が「人とかかわり」や「きまり」をどのようにとらえているかということに着目する必要があるでしょう。お互いの違いを認め合いながら、集団の中でどのように行動するかを考えさせていかねばなりません。

③「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」という問いに「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合



小学生（高学年）の計画的な勉強計画の指導については、家庭と学校とが共に考えていかねばならない課題の一つです。中学生は、今年度特に良い値を示しています。小中連携して家庭学習の在り方を考えていけば、子どもたちの自学自習の力をつけることにつながっていくと思われます。

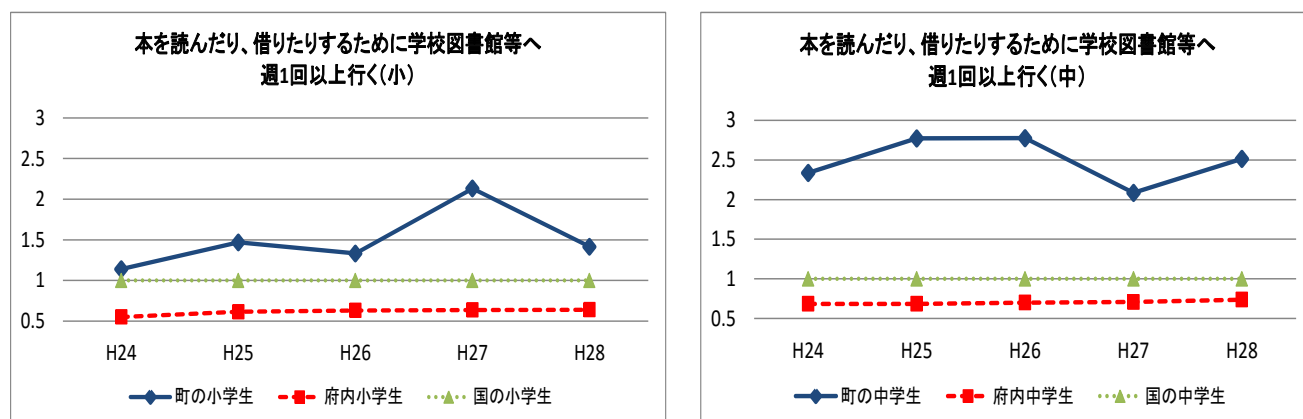
④「朝食を毎日食べていますか」という問いに「している」と回答した割合



小学生の落ち込みが、課題です。人数が少ないので、上下動が大きい中でのことですが、毎日食べていないと回答している割合が小学校で 1.7%（府 1.3 国 0.9）中学校で 1.5%（府 2.6 国 1.8）あるので家庭と共に食育に取り組む必要があります。

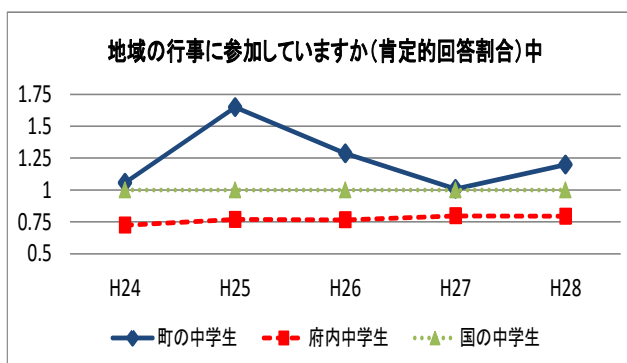
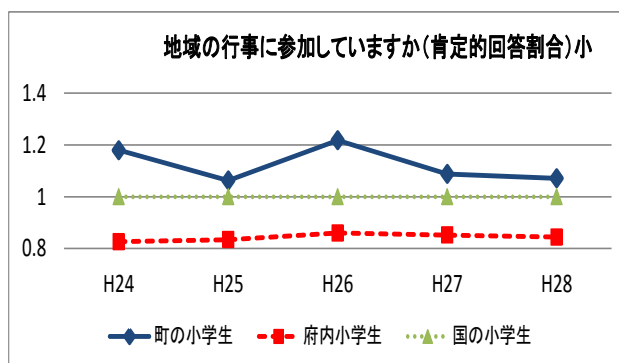
<良好な項目>

①「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか



週 1 回以上学校図書館等へ行く回数は、全国平均に比べ、小学校で約 1.5 倍、中学校で 2.5 倍にもなっています。本町では早くから各学校に図書館司書が配置され、子どもの読書推進活動に積極的に取り組んできました。どの学校図書館も、読書イベントや素敵な飾りつけなどで学校図書館に入りやすい工夫がされています。本が苦手な子も読書の楽しさを見つける場所となって欲しいものです。

②「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という問いに、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



年により上下はありますが、小学校・中学校とも全国や府より常に高い値で、よく子どもたちは地域の行事に参加しているといえます。地域の大人と交流を深める中で、生きる力につながっていくことができると願っています。

【4】課題克服のための今後の取り組み

<課題>

学習面：文章を読み解き、資料を基に自分の考えをわかりやすく表現する力。

生活面：基本的な生活習慣、主体的な学習習慣の定着。



○見えにくい学力（思考力・判断力・表現力、関心・意欲）の育成

- ・ユニバーサルデザインの視点（めあて、ふりかえりの明示、視覚支援や焦点化・共有化を行う）でどの子どもわかる授業づくりをめざします。
- ・アクティブラーニングの視点（子どもが主体的になり、対話を通して深く学ぶ）で、物事への関心と理解を広げ深める授業づくりをめざします。
- ・小・小連携、小・中連携や学力向上担当者会で豊能町の学校スタンダード（学びのルール、学びのプロセス、学びのフォーム）の構築を図ります。
- ・教育課題を見据えた研修で学び続ける教員を支援します。

○基本的な生活習慣・学習習慣の確立への支援

- ・小学校のわくわく教室の運営支援と中学生まなび舎教室の充実を図り、自学自習の習慣作りを支援します。
- ・地域人材を活用し、生涯学習課と連携して文化的なイベントを通して知的な好奇心を高める機会を提供します。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を継続し、保育所・園とも連携しながら食育や生活リズム改善の取組を促進します。